

BIENNIALS/TRIENNIALS TODAY'S QUESTIONS

SYMPOSIUM FOR THE YOKOHAMA TRIENNALE 2008



横浜トリエンナーレ2008 公開シンポジウム

「国際展にいま問われているもの」

2007年11月18日(日) 午後2時—午後4時

国際交流基金国際会議場

このたび、横浜トリエンナーレ組織委員会では、来年秋に開催される「横浜トリエンナーレ2008」の総合ディレクター及びキュレーターを迎え、シンポジウム「国際展にいま問われているもの — 横浜トリエンナーレ2008に向けて —」を実施いたします。今回のシンポジウムでは、総合ディレクターの水沢勉氏より、横浜トリエンナーレ2008が目指す方向性、並びに現在の準備状況を報告いただくとともに、世界各地でビエンナーレやトリエンナーレなどの国際展が多数開催されている現状を踏まえた上で、その問題点や可能性をパネリストの活発な議論を通じて考えていきたいと思います。横浜トリエンナーレ2008のプレ・イベントとしても位置づけられる本シンポジウムへの皆様のご参加をお待ちしております。

「国際展にいま問われているもの」

BIENNALES/TRIENNALES: TODAY'S QUESTIONS—SYMPOSIUM FOR THE YOKOHAMA TRIENNALE 2008

日時 2007年11月18日(日)午後2時—午後4時

会場 国際交流基金国際会議場(〒107-6021 東京都港区赤坂1-12-32アーク森ビル20階、東京メトロ南北線(N05)「六本木1丁目」駅、3番出口)

主催 国際交流基金、横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

定員 150名(要事前申込、入場無料)、日本語・英語同時通訳

申込方法 シンポジウムに参加ご希望の方は、HP(www.yokohamatriennale.jp)又はFAXにて、必要事項(氏名(かな)、所属、Eメールアドレス、電話番号、FAX番号)をご記入の上、11月5日(月)までにお申込ください。申込者多数の場合は抽選の上、11月9日(金)までに入場券をEメールにてお送りいたしますので、当日お持ちください。抽選結果の発表につきましては、当選者の方への入場券発送をもって代えさせていただきます。

お問合せ 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局
〒107-6021東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル20階 国際交流基金内
Tel: 03-5562-3531 / Fax: 03-5562-3528(担当:松岡、平)
www.yokohamatriennale.jp

Date November 18 (Sun.), 2007 14:00 – 16:00

Place The Japan Foundation Conference Hall (Ark Mori Bldg. 20F, 1-12-32 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-6021)
Nearest station: Roppongi-itchome (N05, Namboku Subway Line) EX.3

Organized by The Japan Foundation, City of Yokohama, NHK, Asahi Shimbun, The Organizing Committee for the Yokohama Triennale

Quota 150 participants (Participants must apply in advance / Admission free) Japanese-English simultaneous interpreting provided

For further information Yokohama Triennale Office
c/o The Japan Foundation, Ark Mori Bldg. 20F, 1-12-32 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-6021
Tel: 03-5562-3531 / Fax: 03-5562-3528
www.yokohamatriennale.jp

パネリスト



水沢 勉 Tsutomu Mizusawa

神奈川県立近代美術館 企画課長

Chief Curator, The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

1952年横浜生まれ。1978年慶応義塾大学大学院修士課程修了後、神奈川県立近代美術館に学芸員として勤務、現在同館企画課長。ドイツ語圏および日本の近現代美術に関心を抱き、その交流史についても論じる。主な著作に『この終わりのときにも——世紀末美術と現代』(思潮社、1989年)、『点をする中心』(共編著、春秋社、1995年)、訳書にCh. M. ネベハイ『エゴン・シーレー——スケッチから作品へ』(リプロポート、1993年)など多数。企画・担当した主な展覧会は、「第26回今日の作家」展(1990年/近藤幸夫、正木基との共同企画)、「舟越桂」展(1993年)、「アジアのモダニズム」展(1995年/建畠哲、塩田純一との共同企画)、「アントニー・ゴームリー」展(1996年)、「若林奎」展(1997年)、「モボ・モガ1910-1935」展(1998年/ジャッキー・メンジーズ、ジョン・クラークらとの共同企画)、「小杉武久」展(2002年)など多数。また、1993年と1997年にバンガラデシュ・アジア・アート・ビエンナーレ、2004年にサンパウロ・ビエンナーレの日本コミッションを務める。



ダニエル・バーンバウム Daniel Birnbaum

フランクフルト市立美術大学学長、ポルティクス ディレクター

Rector of the Städelschule Art Academy and Director of the Portikus, Frankfurt am Main

フランクフルト市立美術大学学長、同学ポルティクス・ギャラリー ディレクター。『ホスピタリティ・オブ・プレゼンス』(1998年)を著す。また、ルードヴィッヒ・ヴィトゲンシュタイン、エドムント・フッサール、マルティン・ハイデガー等の著作の翻訳/解説者でもある。マガジン3(ストックホルム)のアソシエイト・キュレーターを務め、「アートフォーラム・インターナショナル」への寄稿・編集を行う。これまで約50の展覧会を企画し、「ヴェネチア・ビエンナーレ」(2003年)、「第1回モスクワ・ビエンナーレ」(2005年)には共同キュレーターとして参加した。また、巡回展「アンサートン・ステーツ・オブ・アメリカ」およびポンビドーセンター 30周年記念展「エール・ド・パリ」(2007年)をハンス・ウルリッヒ・オブリスト、グンナー・B・クヴァランとともに企画構成した。最新著書『クロノロジー』をシュテルンベルグ・プレスから出版。



フー・ファン Hu Fang

ビタミン・クリエイティブ・スペース アーティスティック・ディレクター

Artistic Director of the Vitamin Creative Space

1970年、中国生まれ。1992年に武漢大学の中国文学学科を卒業。ビタミン・クリエイティブ・スペースの創設に参画し、2002年からアーティスティック・ディレクター。広州と北京に在住。小説家、ライターとして『ショッピング・ユートピア』、『センス・トレーニング:理論と実践』、『スペクテーター』などの小説シリーズを出版している。最近では、架空のエッセイ集『ニュー・アーケード(サバイバル・クラブ、センセーション・フェアー、クール・サンズイ)』を発表した。『スルー・ポピュラー・エクスプレッション』、『ルーズ』、『パーフェクト・ジャーニー』、『マイ・ホーム・イズ・ユア・ミュージアム』、『オブジェクト・システム:ドゥーイング・ナッシング』他の展覧会の企画構成を行う。2006年から『ドクメンタ12マガジン・プロジェクト』の編集コーディネーターに携わる。



三宅 暁子 Akiko Miyake

現代美術センターCCA北九州 プログラム・ディレクター

Program Director, Center for Contemporary Art (CCA) Kitakyushu

Photo: Melik Ohanian

現代美術センターCCA北九州共同創設およびプログラム・ディレクター。1997年の開設以来、数多くの展覧会を企画構成するとともに、50冊を越すCCAアーティスト・ブック・シリーズならびに同時代のさまざまな分野に関連する書籍の企画・編集・出版を行う。マリナ・アブラモヴィッチ、ダニエル・ビュレン、マウリッツィオ・カテラン、タシタ・ディーン、ジミー・ダーラム、マリア・アイヒホルン、オラファー・エリアソン、ケリス・ウィン・エヴァンス、ハミッシュ・フルトン、リアム・ギリック、ファン・ヨン・ピン、スージャ・キム、フィリップ・パレーノ、ピピロッチ・リスト、アンリ・サラ、杉本博司、リクリット・ティラヴァーニヤ、ローレンス・ウィナー、他多数のアーティストの展覧会を企画開催している。また、2001年から芸術・科学・人文科学・建築を横断する国際会議「ブリッジ・ザ・ギャップ?」を企画・オーガナイズ、これまで北九州、ミラノ、チェンマイ、上海で開催されている。



ハンス・ウルリッヒ・オブリスト Hans Ulrich Obrist

サーペンタイン・ギャラリー 展覧会プログラム共同ディレクター、

国際プロジェクト担当ディレクター

Co-Director of Exhibitions and Programmes and Director of International Projects, the Serpentine Gallery

Photo: Dominik Giger

1968年、チューリッヒ生まれ。ウィーンのみュージアム・イン・プログレス キュレーター(1993—2000)、バリエ市近代美術館 キュレーター(2000—2006)を経て、2006年4月からサーペンタイン・ギャラリー展覧会プログラム共同ディレクター、国際プロジェクト担当ディレクター。1991年以降、『ドゥ・イット、テイク・ミー、アイム・ユアーズ』(サーペンタイン・ギャラリー)、『シティーズ・オン・ザ・ムーヴ』、『リブ/ライフ』、『ヌイ・ブランシュ』、『第1回ベルリン・ビエンナーレ』、『マニフェスタ1』を含め、150を超える展覧会のキュレーションを行ってきた。最近では「アンサートン・ステーツ・オブ・アメリカ」、『第1回モスクワ・ビエンナーレ』、『第2回広州ビエンナーレ(中国広東省)』のキュレーターを務めた。2007年、マンチェスター国際フェスティバルにおいてフィリップ・パレーノと共同で『イル・テンポ・デル・ポスティエノ』を企画構成した。



ベアトリクス・ルフ Beatrix Ruf

クンストハレ・チューリッヒ ディレクター

Director, Kunsthalle Zürich

1960年生まれ。ウィーン、ニューヨーク、チューリッヒで学ぶ。2001年9月からクンストハレ・チューリッヒ ディレクター兼キュレーター。『テート・トリエンナーレ』(テート・ブリテン、ロンドン、2006年)キュレーター、クンストハウス・グラールス ディレクター兼キュレーター、トゥルガウ州立美術館 キュレーター(1994—98)、リンギエー・コレクション キュレーター(1995—)を務めた。2003年から、出版社JRP・リンギエーのアソシエイト・エディターとして活動している。ジェニー・ホルツァー、マリナ・アブラモヴィッチ、ピーター・ランド、リアム・ギリック、ピエール・ユイグ/フィリップ・パレーノ:『ノー・ゴースト・ジャスト・ア・シェル』、ロドニー・グラハム、イザ・ゲンツケン、ダグ・エイケン、オリバー・ペイン&ニック・レルフ、ドミニク・ゴンザレス・フォレストル、ジョン・アームレーダー、トリシャ・ドネリー他多数のアーティストの展覧会を企画開催、あわせてエッセイ執筆、カタログ出版を行う。